

北陸電力 Visual AI Solutions 株式会社の設立および事業開始について

2026 年 7 月 29 日
北陸電力株式会社

このたび、当社は、画像 AI 技術を活用したサービスを提供する新会社「北陸電力 Visual AI Solutions 株式会社」（略称：北電 VISION）を 7 月 1 日に設立し、営業を開始いたしましたので、お知らせいたします。

（設立決定については 2026 年 4 月 28 日お知らせ済）

なお、北電 VISION は、当社社内起業制度※に基づく初の新会社となります。

※社内起業制度

社員から広く新規事業を募集し、提案者自らが社長になり、資本金の 3 分の 1 以下の範囲（100 万円以上）で自ら出資を行い、新会社の運営を行う制度。

北電 VISION では、画像 AI 技術を活用し、クマ等の害獣の自動検出 AI 通報システムである「B アラート」や道路損傷 AI 検出システムである「R チェッカー」等のサービスを提供いたします。

「B アラート」は、既に北陸をはじめ、神戸市、仙台市、秋田県など全国の自治体等への導入が進んでおります。当社は、新会社「北電 VISION」を通じて、地域課題の解決に資する新たなサービスの提供を進めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

1. 新会社の概要

名称	北陸電力 Visual AI Solutions 株式会社	
設立日	2026 年 7 月 1 日	
所在地	富山県富山市久方町 2 番 54 号 （北陸電力株式会社 新価値創造研究所内）	
資本金	6 5 0 万円	
主な出資者	北陸電力株式会社 株式会社ほくつう ガルム株式会社 北電技術コンサルタント株式会社 など	
代表取締役社長	橋本 茂男（はしもと しげお）	
事業内容	画像 AI を活用したシステムおよびサービスの提供	
	B アラート	・ トレイルカメラ等の画像からクマ等の害獣の出没を自動検出し、速やかに通報するシステム ・ 害獣のみを 99.9% の高精度 で検出し、利用者へ自動通知するため、初動対応時間の削減および地域への早急な情報提供・注意喚起の実現に寄与
	R チェッカー	・ スマートフォンで撮影した道路画像から損傷箇所（穴・ひび割れ等）を自動検出し、地図上に表示するシステム ・ 不具合箇所を 90% 以上の高精度 で検出し、損傷箇所の解析結果を表示するため、点検・修繕業務の効率化および高度化の実現に寄与

2. 社名の由来とロゴマーク

<社名の由来>

画像A I 技術を通じて社会課題を解決する同社の事業内容を踏まえ決定しました。
また、社名にちなんだ略称「VISION」には将来のありたい姿や目指す方向性という意味を込め、より良い社会・地域の未来を描く同社の“ビジョン”を表現しています。

<ロゴマーク>



- ・略称である「HOKUDEN VISION」の「HV」の文字をベースに構成
- ・北陸電力のグループ会社として同社ロゴマークを取り入れ、AI による画像解析と未来への成長・発展を「光」で表現し、先進性と親しみやすさを表現

3. ホームページの開設

会社設立および事業開始にあわせ、ホームページを開設いたしました。

ホームページでは、会社概要や事業内容に加え、クマ等の害獣の自動検出A I 通報システム「Bアラート」、道路損傷A I 検出システム「Rチェッカー」のサービス内容をご紹介します。また、各サービスの紹介資料も掲載しております。

(ホームページURL) <https://rikuden-vision.co.jp>

4. 本事業におけるパートナー企業との役割分担

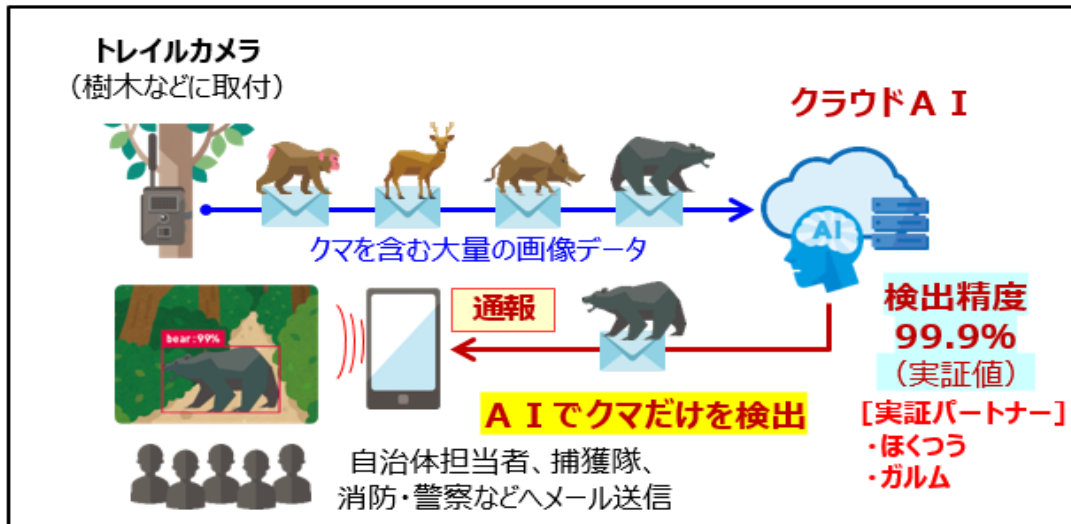
北陸電力株式会社	事業統括（企画・運営 等）
株式会社ほくつう	システム運用（管理・保守）
ガルム株式会社	A I 開発（解析技術の高度化・精度向上）
北電技術コンサルタント株式会社	インフラ知見（道路・設備に関する専門知見）

5. 参考



B アラート [害獣の自動検出 A I 通報システム]

- ・トレイルカメラ等の画像からクマ等の害獣の出没を自動検出し、関係者へ速やかに通報することで、迅速な初動対応を可能とするシステム。クマ等の害獣のみを高精度に検出することで、不要な業務を削減し、初動対応時間の大幅な削減を実現。
- ・2021年に富山県と実証実験を開始以降、石川県、福井市など北陸3県の自治体を中心に導入が広がり、現在、北陸外の自治体も含めて21自治体で導入済。現在、全国で約300台のカメラを設置。導入自治体からは、初動対応の迅速化に繋がると評価いただくなど、全国的に広がる害獣被害の抑止や自治体の現場業務（獣害対策）の効率化・高度化に寄与。



R チェッカー [道路損傷 A I 検出システム]

- ・道路パトロールカー等に取り付けたスマートフォンで撮影した道路画像からひび割れ等の道路損傷を自動検出し、道路損傷箇所を地図上に表示するシステム。道路点検業務や道路修繕業務の効率化や高度化を実現。
- ・2025年3月から福井県で実証導入を開始。現在、約20台導入され、福井県からは、道路損傷の把握精度の向上に繋がると評価をいただいている。今後、全国の自治体を対象に導入拡大予定。

